

## 古代日本人の考え方と神話

2019 年本試

問 1 次のア～ウは、古代の日本人が神に対するとき重んじた心についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 

20
----

ア 神に対しては、自己の感情を抑え、道理によって神を理解しようとする心をもつことが大切であり、それを「真心」と呼ぶ。

イ 神に対しては、神を欺いたり自分を偽ったりすることのない心で向き合うことが大切であり、それを「清き明き心」と呼ぶ。

ウ 神に対しては、神が定めた善悪の基準に背くことのない、従順な心で接することが大切であり、それを「正直」と呼ぶ。

- |   |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	20	⑤	3

2018 年本試

問 1 日本の神話や伝承で示される神についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

20
----

- ① 元来、神は特定の形をもつものではなく、人間に畏怖の念を抱かせるものや、人知を超えた不可思議な現象が神のあらわれとされた。
- ② 神は善事を行うだけでなく ろろう げき 狼藉を働くこともあったが、神の狼籍は造物主としてのアマテラスによって裁かれると考えられた。
- ③ 洪水や き きん 飢饉、疫病の流行といった災厄は神の た た 祟りであり、祟りをなす神に対してはいかなる きい し 祭祀を行っても効果がないとされた。
- ④ 神は人間の住む世界からは隔絶した他界に存在し、自然の秩序や人々の生活に関与することはないと考えられた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	①	3

2017年追試

問1 古代日本における神と人間との関わりについての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 神は時として人間に対し、自らの意思を示すことがあると考えられていた。人間が神の意思をうかがい知るためには、天理に基づいて欲望を抑制し、神の心と己の心を一にする必要があった。
- ② 神の力は恵みを与え、人々の生活を支えるものであったが、飢饉<sup>ききん</sup>や疫病などの災いをもたらすこともあった。人々は災いをもたらす神の力を和らげ、恵みをもたらす力に変化させるために、祭祀<sup>さいし</sup>を行った。
- ③ 罪は災いをもたらし、共同体を危機に陥れるものであると考えられていた。人間は生まれながらに罪深い存在であるため、神への信心によって罪を清め、災いから逃れる必要があるとされていた。
- ④ 人々は鳥獣、草木、山海、天体などを、天地の道の働きによって現れた存在であると考えたため、これらのものを神として敬った。その結果、多種多様な神が自然のうちに見いだされた。

問2 記紀の神話の内容の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 原初の神々が出現した後、イザナキ(イザナギ)・イザナミの二神によって、人間の暮らす国が生み出された。
- ② イザナミは多くの神を生んだ後、命を落とし、穢れに満ちた醜悪な黄泉国へ赴いた。
- ③ 最も貴い神であるアマテラスは、イザナキ(イザナギ)が高天原へ行き、偽りのない心を示した時に誕生した。
- ④ アマテラスが主宰する高天原では、神を祀<sup>まつ</sup>るために、水田での稲作や機屋での機織りが行われていた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	20	②	3
第3問	問2	21	③	2

2016 年本試

問 1 アマテラスが天の石屋戸に籠もったのは、スサノヲの犯した罪を目の当たりにしたためであった。スサノヲの行為として描かれた、古代日本における罪およびその償いの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① アマテラスの稲田の畔<sup>あぜ</sup>を壊し、汚物をまきちらして宮殿を穢<sup>けが</sup>すなど、農耕や祭<sup>まじ</sup>祀<sup>し</sup>を妨害するという罪を犯したため、その償いとして、多くの物品を献<sup>けん</sup>じる「祓<sup>はら</sup>い」を科せられた。
- ② 天上世界の統治権をアマテラスから奪<sup>うば</sup>い取ろうとする反逆の罪を犯したため、その償いとして、ヤマタノヲロチの退治を命じられ、改めて統治者に忠誠を誓<sup>ちか</sup>う「清明心」を証<sup>あか</sup>し立てた。
- ③ 母であるイザナミに会いに黄泉国に赴<sup>ゆ</sup>くが、その醜<sup>みにく</sup>さにおののいて逃げ出し、地上世界に穢<sup>けが</sup>れを持ち込むという罪を犯したため、その償いとして、川で身を清める「禊<sup>しづ</sup>め」を行った。
- ④ 国造りを推進するうえで、草木を切り払い、鳥獸を襲<sup>せま</sup>うなどして、神々の宿る自然界を荒らすという罪を犯したため、その償いとして、災厄を始めとする「祟<sup>まじ</sup>り」を引き受けた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	①	3

2016 年追試

問 1 古代日本における神への信仰の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

20
----

- ① 神への祈りによって，穢<sup>けが</sup>れに満ちたこの世から，神の世界である高天原に生まれ変わるものと信じられた。
- ② 定まった形をもたず，目には見えない神が，ときに具体的な姿で現れ，不可思議な力を示すと考えられた。
- ③ 嘘<sup>うそ</sup>偽りのない心をもつことが，神と人々との間で取りかわされる契約として重んじられた。
- ④ 宇宙万物を創造する絶対的な究極の神が信じられ，多神教的な外来の信仰は異質なものとして退けられた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	②	2

2015 年本試

問 1 次の文章は、神と関わりながら生きて古代の人々の心について述べたものである。・に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

古代において、祭祀の際に求められた、神に対する心の有り様は、と呼ばれた。後に近世の国学者たちは、和歌や神話の研究を通じ、仏教や儒教を受容する以前の古代の人々の心を探究した。例えば、賀茂真淵は、『万葉集』の基調として素朴でおおらかな「」を見いだし、それを理想と考えた。

- ① a 高く直き心      b 清き明き心
- ② a 高く直き心      b 真 心
- ③ a 清き明き心      b 高く直き心
- ④ a 清き明き心      b 真 心
- ⑤ a 真 心              b 高く直き心
- ⑥ a 真 心              b 清き明き心

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	③	2

2013 年本試

問 1 『古事記』に描かれる神と世界の関係についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

21
----

- ① 世界は、唯一絶対の神が 混沌 から作り出したものであり、この神が世界に存在するすべてのもののあり方を定めている。
- ② 世界には多数の神々が存在し、その背後には唯一絶対の神が控えている。この神を 祀 ることで、世界は安定を保っている。
- ③ 世界の中心には高天原があり、そこに暮らす神々が世界に存在するすべてのもののあり方を定めている。
- ④ 世界は、唯一絶対の神を根拠とするのではなく、おのずから成った世界であり、そこに多数の神々が存在している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	21	④	2

2012 年本試

問 1 八百万の神々はどのような存在か。その説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 感覚を超えた絶対的に善なるもの
- ② 不可思議で 畏怖<sup>いふ</sup>すべきなものか
- ③ 全知全能にして宇宙万物の創造主
- ④ 宇宙の根底にある不変の根本原理

問 2 神々とともにこの世を生き，隠しごとがなく純粹であるような心のあり方を表す言葉として 適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 赤 心    ② 明き心    ③ 黒 心    ④ 清き心

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	②	2
第 3 問	問 1	14	③	2

2012 年追試

問 1 古代日本における神と祭祀についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 

13
----

- ① 祭祀の場では，神に対して欺き偽らない心の ありよう 有様が重んじられた。この心は人間関係においても重視され，後世，「正直」や「誠」の考え方へとつながった。
- ② 祭祀に奉仕するものは，身心に付着した けが 穢れを除くため みそぎ 禊を行った。禊は，川や海の水によって穢れを洗い流す儀礼であった。
- ③ 祭祀に際しては，神に対して祝詞を唱え，山や海のご食物などの供物を ささげ 捧げ，神を なご 和ませた。神は和むことで ほうじょう 豊穰をもたらすと考えられた。
- ④ 祭祀を妨げる行為は罪とされ，犯したものは戒律により罰せられた。神は善なる存在であり，戒律による罰は，神からの罰と同じものと考えられた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	④	3

2010 年追試

問 2 蕃神とは外国の神という意味である。当時、仏を蕃神と呼んで、それを信仰することに反対する人々もあった。それらの人々が反対した理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 外国の神を敬うのは、在来の神々の怒りを呼ぶおそれがあるから。
- ② 外国の神を受け入れるのは、在来の絶対神との契約に背くから。
- ③ 仏には、在来の神々のように恩恵だけをもたらす力がないから。
- ④ 仏を在来の神々と同列に扱うのは、仏の怒りを招くおそれがあるから。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	①	2

2009 年本試

問 1 文章中の 13 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 13

『古事記』によれば、国土を生んだ伊邪那美命<sup>いざなみのみこと</sup>は火の神を生んで傷つき、この世を去る。13へ妻を追った伊邪那岐命<sup>いざなきのみこと</sup>は、妻の変わり果てた姿に驚いて逃げ帰り、そこへの道を大岩で塞<sup>ふさ</sup>いでしまう。伊邪那美命は岩の向こうから「人間を一日に千人殺してやろう」と叫ぶ。

- ① 常世国      ② 黄泉国      ③ 高天原      ④ 葦原中国

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	②	2

2008 年本試

問 3 古代の「清き明き心（清明心）」以来の伝統をもつ、心情の純粹性を尊ぶ倫理観は、武士の生きる姿勢にも影響を与えてきたとされる。この倫理観について述べた言葉として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 

16
----

- ① 正直の心を以て天皇朝廷を衆助け仕へ奉れ。
- ② 穢土を厭離し、浄土を欣求す。
- ③ 人能く私心を除く時は至大にして天地と同一体になるなり。
- ④ 至誠にして動かざる者未だ之れあらざるなり。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	16	②	3

2008 年追試

問 2 古代の祝詞である「大祓の詞ことば」に関する儀式として、祓はらい(祓はらえ)がある。この儀式の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

15

- ① 災害や病気を外部から侵入した邪悪な力によるものと考え、それをなだめ祀ることによって恵みを与える力に変えようとした。
- ② 災害や病気を人間の行いに対する報いと考え、身を慎み、戒律に従って行いを正すことによって平安を得ようとした。
- ③ 災害や病気を人間の心のもち方によって引き起こされたものと考え、罪を告白し、悔い改めることによって赦ゆるしを得ようとした。
- ④ 災害や病気を外からふりかかるものと考え、それを除去したり代償を捧ささげたりすることによって正常な状態に戻れるとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	④	3

2005 年本試

問 2 文章中の  に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ  
選べ。

『古事記』によれば，伊邪那岐命・伊邪那美命という男女二神が，  
とされる。ここには，男女の関わりが，この世界において根源的な力をもつもので  
あるという考えを見ることができる。

- ① その結びつきにより，国土と諸神を生み出した
- ② その意志によって，この宇宙と万物を創造した
- ③ その超越的な力によって，万物に生成を命じた
- ④ その靈的作用により，原初の人間を誕生させた

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	①	3

2005 年追試

問 5 アニミズムの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① この世のものは、原理と素材から成っており、人の靈魂や不可思議な現象も、そこから説明できるとする考え方。
- ② この世のものは、互いに依存し合って存在しているが、それらの関係の背後に大いなる空を認める考え方。
- ③ この世のものは、超越者たる神のもとに存在しており、人の靈魂もまた、この神に支配されているとする考え方。
- ④ この世のものは、動植物のみならず無生物を含めて靈魂を宿しており、それが神秘的に働いているとする考え方。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	24	④	3

2003 年本試

問 1 日本における神の性質を述べた語句として、文章中の **A** に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **19**

神は、**A** であった。時として災いをなす神は、また、もろもろの幸いをもたらしてくれるものでもあり、人々の生を根底から支える 拠り所であった。

- ① 全知全能にして宇宙万物の創造主
- ② 信仰の有無により審判を下す存在
- ③ 不可思議で 畏怖 すべきなものか
- ④ 感覚を超えた絶対的に善なるもの

問 2 古代日本における祭祀に関する記述として 適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **20**

- ① 祭祀に奉仕する者は、身心に付者した 穢れを除くため 禊 を行った。
- ② 祭祀を執り行う者は、聖職者として政治的支配階層から排除されていた。
- ③ 祭祀を妨げる行為は罪とされ、これを犯した者には 祓 えが課せられた。
- ④ 祭祀の場では、神に対して欺き偽らない心のありようが重んじられた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	19	③	3
第 3 問	問 2	20	②	3

2000 年本試

問 1 文中の 23 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
23

日本をインド・中国と並ぶ「三国」の一つとする見方は、古代以来仏教とともに広く定着していたが、その中で日本は、「<sup>へん</sup>土（辺境の地）」とされる場合が多かった。しかし平安末期以来、日本は神々の加護を受けた特別な国であるとする神国思想も徐々に普及しはじめた。鎌倉新仏教のように、そうした考え方に距離をおき、仏教の普遍性を強調した思想もあったが、対外的危機感の高まりなどから、神国思想は流行し、仏教よりも神道を上位におく 23 なども生まれた。

- ① 伊勢神道      ② 国家神道      ③ 教派神道      ④ 復古神道

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	23	①	2